

講義名	オ)経営管理論A (マーケティング学科 2年生+3年生以上)			
担当教員	長田 貴仁			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

<b>主題と概要</b> 主題：組織の運営管理を学ぶ。 概要：経営管理論は組織の管理運営を考へる学問である。本講義では、「経営管理論の全体像」「内部組織のマネジメント」「外部環境のマネジメント」「日本企業のマネジメント」という順序で理論を解説していく。ただし、理論のための理論の企業では終わらない。常に現実のビジネスに言及しながら授業を進める。
--

<b>到達目標</b> 1. 経営学の主要領域である「経営管理論」の基礎知識を身に付けられる。 2. 就活、そして就職後も役立つ実践的理論を習得できる。
<b>提出課題</b> 適宜指示する。

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b> Q&Aタイムを設け、質疑応答する。
---

<b>評価の基準</b> 期末テスト50%、講義内で求める提出物50%。 本講義は、現代ビジネス社会の評価基準である「信用必罰」を適用する。 良い結果を出した人は高く評価する。本講義開始後に守らない場合は、「契約違反」として処する。 「現代ビジネスの基本」は契約である。履修登録した段階で、以下の契約内容に同意したことになる。 1. 「ネアカ」のびのび「ムコタチヤ」の精神を体現し、組織（クラス）のモチベーションを高める前向きな姿勢を見せた人は努力点として加点する。 2. 他の科目と同様、出席は当たり前。無断欠席は大減点。欠席する場合は証明書類（例：公欠届、医師の診断書が病院の領収書写し、など）を提出せよ。 3. 組織（クラス）を落とす迷惑行為、業務（授業）を妨害する行動、発言については、期末書の提出を求める場合がある。その結果として、大減点点になることを認識し「大人としての行動」を心掛けて欲しい。
--

<b>履修にあたっての注意・助言他</b> 1. 原則として、1回につき、1章分の内容を講義する。テキストの予習、復習を欠かさないこと。ただ座り、ボーッと聞いているという態度は確んで欲しい。講義中はノートに記す作業を怠らないこと。 2. 毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。「日経ビジネス」、「東洋経済」、「タタヤモンド」、「プレジデント」、「生島タビスタ」などのビジネス誌も定期的に目を通しておき、常に「情報武装」しておくことが望ましい。 3. テーマを決め、それに関する記事をスクラップブックに貼り（デジタル処理してもいい）、熟読し関連情報を調べること。
--

<b>備考</b> ビジネス誌「プレジデント」編集部を経て、2005年4月、神戸大学大学院経営学研究科助（准）教授に就任したのを皮切りに大学の世界に入りました。その後、複数の大学、大学院で一般学生だけでなく、社会人も教えてきました。その中には現役社長も数名いらっしゃいました。これまで、ニューヨーク駐在の他、世界各国で多くの企業エグゼクティブを取材してきました。経営学とビジネス・ジャーナリズムを結合した視座から論じた「ビジネス」を、学界（学会）に留まらず広く社会に向けて、分かり易い言葉で発信し続けています。ジャーナリズムを知る経営学者、経営学を知るジャーナリストです。現在も、新聞、ビジネス誌などを中心に、執筆し、コメントを発信しています。私の最大の特徴は、実際に戦後の日本経済の成長を支えた日本を代表する経営者たちと実際に対話してきたことです。そこから得た知見を生かし、「生きた経営学」を教授したいと考えています。
---

<b>教科書</b> ・1からの経営学 第3版。	加護野忠男・吉村典久（編著）	中央経済社	2,400円	978-4-502-37521-7
-----------------------------	----------------	-------	--------	-------------------

<b>プリント資料及び参考文献</b> 適宜配布する。
--------------------------------

<b>授業計画</b> 第1章 経営管理とは何か 第2章 経営学は役に立つのか 第3章 「儲ければいい」だけが経営管理ではない 第4章 「外の壁」をものにする経営管理 第5章 売っていくための経営管理 第6章 競争するための経営管理 第7章 隣の会社と同じでは... 第8章 いろいろやらないと生き残れない 第9章 海外抜きにして成長は語れない 第10章 組織を上手に運営するには 第11章 「社員を大切に」と一言に言っても 第12章 「働き方改革」とキャリアデザイン 第13章 見直されている「ファミリービジネス」の経営管理 第14章 「コソコソ」では自された病院の経営管理 第15章 いったいNPO（非営利団体）とは
---

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b> 予習：1時間＝テキストをざらざら読み進めること。 復習：1時間＝講義中にメモした内容とテキストの内容を合体させ、「自分ノート」に記し、編集すること。 毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。
---

<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b> 「知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材」を育成するため。 1. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる（情報収集力） 2. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力） を高める。
--

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>
-------------------------------

<b>実務経験の有無及び活用</b> 実務経験あり。著名経営者やビジネスマン、技術者にインタビュー、執筆、編集した経験をもとに、現代ビジネスの実態について言及し、経営学とジャーナリズムの観点から理論的・実践的知識を教授する。
---

<b>備考</b> ビジネス誌「プレジデント」編集部を経て、2005年4月、神戸大学大学院経営学研究科助（准）教授に就任したのを皮切りに大学の世界に入りました。その後、複数の大学、大学院で一般学生だけでなく、社会人も教えてきました。その中には現役社長も数名いらっしゃいました。これまで、ニューヨーク駐在の他、世界各国で多くの企業エグゼクティブを取材してきました。経営学とビジネス・ジャーナリズムを結合した視座から論じた「ビジネス」を、学界（学会）に留まらず広く社会に向けて、分かり易い言葉で発信し続けています。ジャーナリズムを知る経営学者、経営学を知るジャーナリストです。現在も、新聞、ビジネス誌などを中心に、執筆し、コメントを発信しています。私の最大の特徴は、実際に戦後の日本経済の成長を支えた日本を代表する経営者たちと実際に対話してきたことです。そこから得た知見を生かし、「生きた経営学」を教授したいと考えています。
---